

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆 第2版

中村 好一 著

＜書評者＞ 村嶋 幸代（大分県立看護科学大理事長・学長）

読みやすく、楽しく、ためになる本である。著者の意欲と熱意、そして、適度な遊び心が伝わってくる好著である。学会発表から論文執筆に至る必要な事項とコツが具体的に解説されている。ソフトな語り口で、しかし、抑えておくべきポイントや忠告はしっかりと書いてある。保健活動を科学的なものにし、かつ知見を蓄積して効果的に実施していけるようにすべきだという著者の「想い」が伝わってくるような本である。

例えば、「第1部 研究の進め方」では、「なぜ、研究を行うのか」という基本的な問いから始まり、「指導者を得ることの重要性」が述べられている。同時に、倫理的配慮と「なぜ、学会発表/論文公表が必要なのか」が、納得のいくように記載されている。「第2部 主要4部分の書き方、まとめ方」では、緒言・方法・結果・考察の4部分と図表の作成について、書き方の順番、図表の効果的な活用方法、さらに「べからず集」もあり、著者の持つノウハウが豊富に提示されている。「第3部 学

会発表」では、学会選び、抄録・スライド・ポスターの作成、口演とポスター発表の違い、発表原稿の作り方などが、また「第4部 論文執筆・刊行」では、投稿雑誌の選び方、投稿規定を読む重要性、編集委員会とのやりとり、さらに査読を依頼された場合の心得など、基本的で実用的な情報が満載である。「第5部 エピilogue」では、論文執筆の参考書籍も掲載され、有用である。時々挟みこまれる「デッドセクション」では、著者のエスプリが表れている。楽しく読みながら、ポイントを学べ、実用にもなる本である。

この本は、元々は、雑誌『公衆衛生』（医学書院）に連載された「保健活動の try! 学会で発表しよう 論文を執筆しよう」が基盤になった初版の改訂版である。初版からの8年間で、世界は大きく様変わりした。COVID-19により、学会やセミナーの運営や参加の仕方も様変わりした。また、発表の中で、COI（利益相反）を表明すること、さらに、研究開始前に研究倫理審査を受けることが当たり

前となり、研究者には研究倫理の教育が義務付けられる時代である。著者の中村好一氏は、そのような時代の変化を見事に取り込み、本書に盛り込んだ。改訂作業は大変だっただろうと思うが時代にマッチした本に仕上がっている。

著者の元々の意図は、「保健活動の現場にいる人が、自分で自分たちの実践成果を検証し、世の中に問うことが必要であり、その手助けをしたい」という点にある。その意味で、現実に保健・医療・福祉分野で活動に従事している方々、将来保健活動に参画したいと学んでいる学生・院生諸氏、そして実際に、現場の保健活動をまとめて見える化したいと努力している方々に、ぜひとも手にとって読んでいただきたい本である。

● A5 頁240 2021年6月
定価：3,080円
(本体2,800円＋税10%)
[ISBN978-4-260-04651-0]
医学書院刊